

第三回成長戦略会議メモ

鈴木一人

官民投資ロードマップの先行事案をまとめていただいたことで、成長戦略会議が目指すべきものが具体的なイメージとなって現れているように思料する。ここまでの作業を進めていただいた皆様に感謝申し上げます。

官民投資ロードマップの素案を拝読して、三点のコメントを申し上げたい。

第一に、17 の戦略分野で先行して検討するアイテムが出揃ったことは大きな前進ではあるが、これらはいくまでも調整されないまま、それぞれの WG が先行事案として提案しているものであり、これらのアイテムを並べただけでは、戦略の全体像が見えてこないという点である。戦略とは、本来、何らかの戦略的目標を達成するための手段とリソースを明示すべきものであるが、官民投資のロードマップを描くこと、つまりリソースの動員を優先することで、全体としての戦略的目標が明示化されていない。

第二に、それでもなお、日本の勝ち筋として示されているものは、いくつかの戦略的目標に向かう方向性を示しているものと思われる。一つには情報通信のインフラや、その情報通信のインフラの上で動く技術に焦点が当たっているということである。AI・半導体分野、デジタル・サイバーセキュリティ分野、情報通信分野、量子分野はもちろんのこと、防衛産業分野における小型無人機は情報通信がなければ機能しないものであり、航空宇宙分野での無人航空機、海洋分野での海洋ドローンも同様である。

もう一つは、再生可能な資源循環である。マテリアル分野、バイオ分野でもリサイクルが重要なキーワードとして使われている。さらに資源・エネルギー分野でも再生可能エネルギーの重要性が挙げられている。

さらに、レジリエンスもキーワードとして挙げられるだろう。防災・国土強靱化分野はもちろんのこと、創薬・先端医療分野での感染症対応製品や、港湾ロジスティクス分野の港湾荷役機械などもそれに含まれるだろう。レジリエンスは、直接経済成長に結びつくわけではないが、これなしには経済成長が見込まれないという意味で重要な戦略目標になりうると思われる。

情報通信立国、資源循環立国、レジリエンス立国といった戦略的目標が整理されることで、どの分野における施策を優先すべきなのか、また、どのような国づくりを目指すべきなのか

ということが、より明確になることで、この成長戦略の描く国の姿がはっきりしてくるのではないかと思われる。

第三に、経済安全保障や地経学といった観点から見ると、この成長戦略を通じてどのような「自律性」と「不可欠性」を獲得しようとしているのかが明示的ではないように思える。「自律性」に関しては、国家として自ら持たなければならないものであり、他国に依存すべきでないものを意味するが、例えば AI・半導体分野のフィジカル AI や航空宇宙分野の無人航空機、量子分野の量子コンピューティング、マテリアル部門の永久磁石などがある。「不可欠性」は、他国に存在せず、日本がサプライチェーンの中で不可欠な存在になることを意味する。例えば、情報通信分野のオール光ネットワークや、資源・エネルギー分野の次世代太陽電池、フュージョンエネルギーなどがあるだろう。それぞれの分野において、それらが「自律性」を目指すものなのか、「不可欠性」を目指すものなのかを明らかにしながら検討を進めることが、世界に先駆けて経済安全保障の概念を掲げ、政策に落とし込んで実現しているという、世界における日本の存在感を一層高めるものと思料する。

(了)